

式辞 近年にない大雪という、厳しい試練を私たちに与えた冬も鳴りを潜め、校舎から見える栗田湾にも、温かみのある風と柔らかな日差しが光り、ようやく春の訪れを実感できるようになってきました。

本日、卒業生を激励していただきましたために、海上保安学校 校長先生を始め、御来賓の皆様、そして保護者等の皆様、公私ともに御多用の中、多数の皆様の御臨席を賜り、令和七年度第三十六回卒業証書授与式が、かくも盛大に挙行できますことに、日頃からの教育活動に対する御理解と御支援とあわせ、高段からではございますが、深くお礼並びに感謝申し上げます。

まずは、先ほど卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

皆さんはこの三年間、近畿地方唯一の水産・海洋系単独高校である京都海洋高校で、本校ならではの日々の授業・実習、探究活動、部活動、資格取得、生徒会や図書委員会等のさまざまな活動、ボランティア活動、コンテストへの応募・挑戦・入賞などに真剣に取り組んできました。日々の生活の中では、支え合い、挑戦し、時に不安を抱え、また、困難に立ち向かいながらも、目覚ましい実績を上げ、この日を迎えることができました。

例えば、全国の水産・海洋系学科に在籍する生徒の学習成果や職業資格の習得、技術・技能検定等の合格・大会入賞等を通じた評価がなされるマリンマイスターでは、卒業生の約七割が受賞しましたし、全国に二千人を超える水産・海洋高校三年生の中から、得点が高い上位十一名以内の特別表彰に、本校生徒が五名もが含まれる快挙もありました。

また、それぞれが大変質の高い進路を実現しています。これらのことは、全国の水産・海洋系高等学校の中でも冠たるポジションを確立している証であります。

本日、ここで二点のことを述べます。

一点目 この三年間の社会の動きについてです。皆さんが三年生を過ごした令和七年は、昭和百年、戦後八十年という節目、大阪・関西万博、そして感動のドラマが繰り広げられたイタリア・ミラノ・コレティナ冬季オリンピックの開催などという節目の年でしたが、皆さんが入学し歩んできた三年間でも、世界、そして日本は大きな変化の連続でした。入学した令和五年に、長く続いた新型コロナウイルスの位置づけが「五類」になり、私たちの生活がようやく平常を取り戻し始めました。近年の生成AIを始めとするデジタル技術の進化、想定を超える速いスピードで進行する出生率の低下と高齢化率の上昇という人口構造の変化、米の価格上昇を始めとする物価高、予測の難しい国際情勢。さらには能登半島などの地震、夏の猛暑や大雪などを含む自然災害、気候変動などの社会課題が頻発し、不確実性の大きい時代が、現在も進行中です。

このことは、今後も予測できない困難な事態が生じ、皆さんには、答えのない課題に立ち向かわなければならぬ場面が必ずあることを意味しています。そのような先行き不透明な社会で生きていくためには、臨機応変に対応できる柔軟性と、さまざまな変化に向き合いながら、未知の課題に挑み続ける粘り強い力、そして自らが判断し行動する自律性が求められます。

二点目 学校と社会の違いについてです。学校は、普通に過ごしていれば、自然と授業などで教えてもらえます。しかし、社会では、自分から行動しないと、普通は教えてもら

えません。社会人には、「教えてもらいう力」も必要です。「教えてもらえなかった。」という責任転嫁は通用しなくなります。どうか、海洋高校で培ったコミュニケーション能力と謙虚な姿勢を武器に、自分の可能性を信じ、変化を恐れず、学び続けてください。

海洋高校で、普通科にはない充実した設備や環境で、地域とつながり、実践を深め、それぞれの探究活動にも打ち込んだ結果、皆さんには、困難な課題に立ち向かう力が備わっていることを、改めて述べておきます。

ここで、自動車会社の創業者である本田宗一郎さんの言葉を紹介します。「チャレンジして失敗を怖れるよりも、何もしないことを怖れなさい」といわれています。これは、皆さんがこれからの人生で何かに挑戦するとき、心に留めてほしい言葉です。失敗を恐れず、前向きに一歩を踏み出す勇氣を持ってください。

後になりましたが、保護者等の皆様、本日はお子様の御卒業、誠におめでとうございました。三年間、海洋高校の教育活動への御理解、さまざまな御支援、まことにありがとうございます。ございました。

本日海洋高校を巣立ち、社会の荒波へと出航する卒業生たちにも未完成な部分があります。これからも、どうか温かく見守り、励ましていただければ幸いです。

結びに、卒業生の皆さんにお願いしておきます。

冬のイタリア・ミラノオリンピック スキージャンプ女子日本代表選手の高梨沙羅（たかなし さら）選手がインタビューで発言されていたように、常に感謝の気持ちを忘れず、そして主体的に行動する自己実現を通して、人生百年時代をより幸せに生きてもらうことをお願いし、以上、式辞とします。

令和八年二月二十七日

京都府立海洋高等学校

校長

上林 秋男